

Title
KITEN

18+

Restricted to 18 and over

DRAGONBALL FANBOOK GOKU×VEGETA K I T E N

Presented by KAMUI



**DRAGONBALL
FAN BOOK**
Goku×Vegeta

Presented by
KAMUI

輝点





Contents

第1話	リセット	5
第2話	記憶	14
第3話	伝心	21

はじめに

この物語は、pixivにupしているカカベジのなれそめ漫画「I 原点」「II 起点」「III 沸点」「IV 融点」の続編です。

〔4編のあらすじを1文で紹介〕

魔人ブウの脅威が去った後、悟空とベジータは互いを特別な存在として意識し、少しずつ互いの心を開示しながら、精神と時の部屋で身も心も深く繋がる。

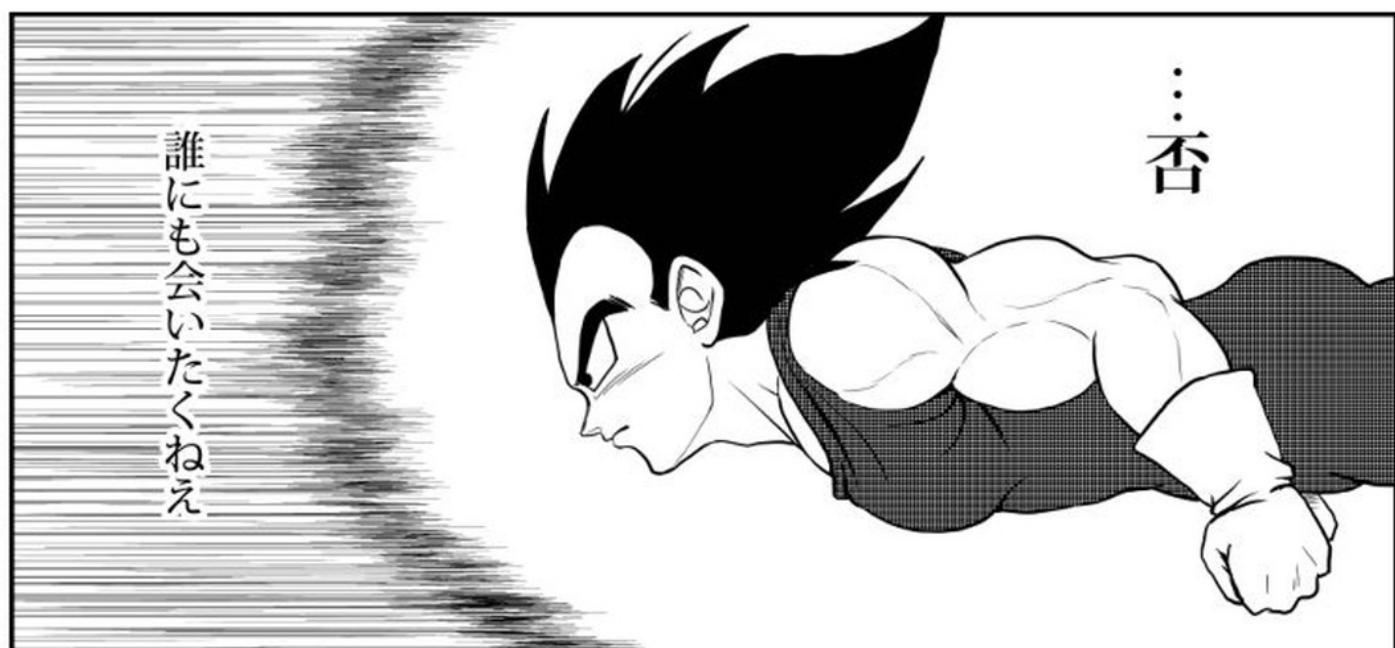
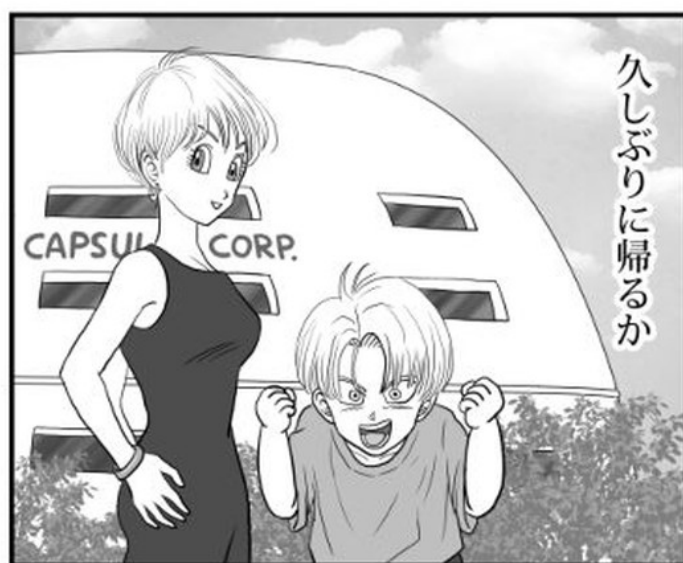
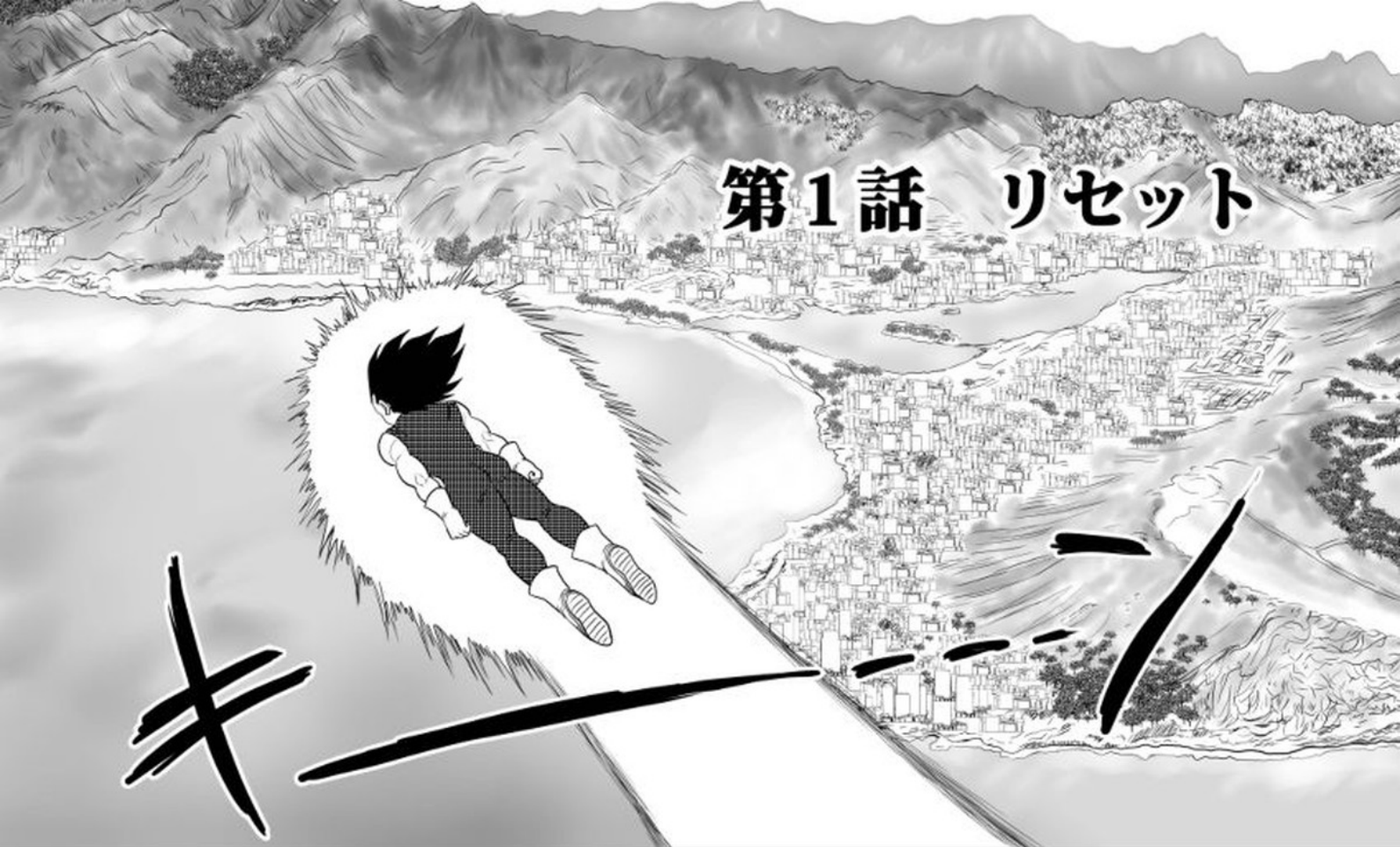
今回のお話は、そういった体験を経て、2人が精神と時の部屋を後にしたところから始まります。

上記4編は2016年の作品で、「読んで♡」とお願いしたくてもできないほど拙い作画ですが、先にご一読いただけると本編がスムーズにご理解いただけるかと思います。未読でも上記の1文あらすじを頭に置いていただければ、本編から読んでも特に支障はないかと思われます。

[pixiv URL]

<http://www.pixiv.net/member.php?id=17380655>

第1話 リセット

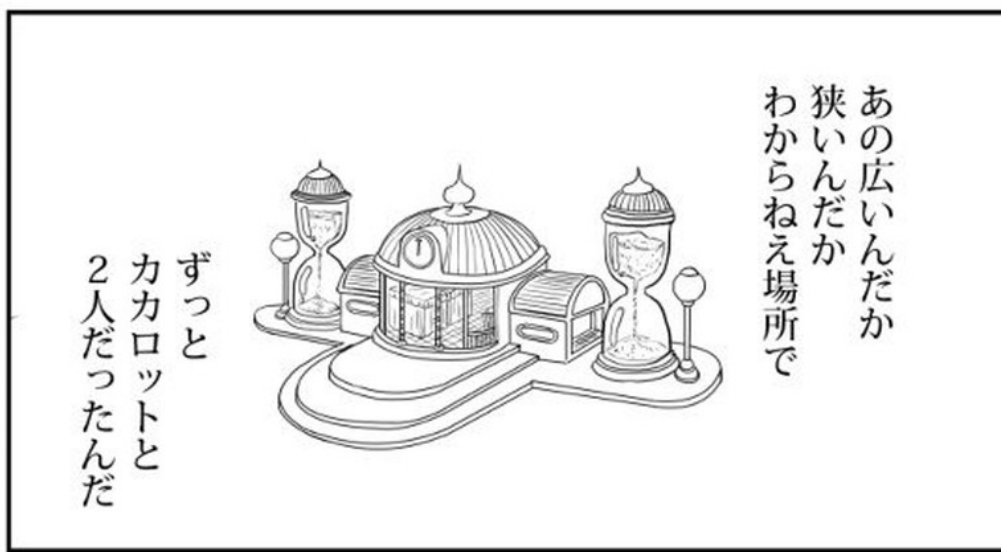


1人になりたい



今は俺は

無性に
1人になり
たい

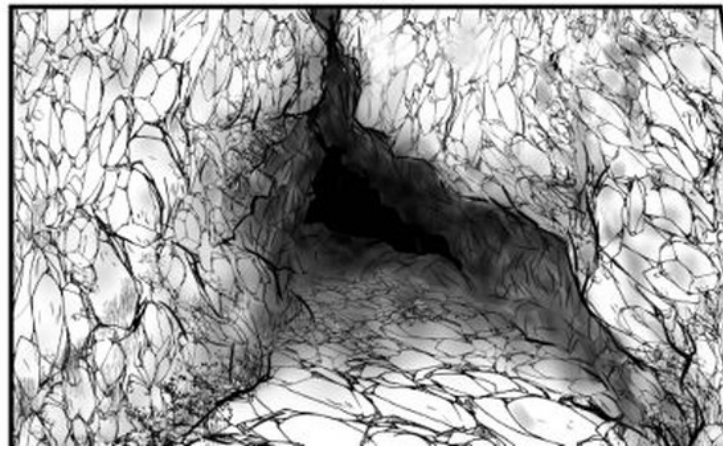


あの広いんだか
狭いんだか
わからねえ場所
で

ずっと
カカロットと
2人だったんだ

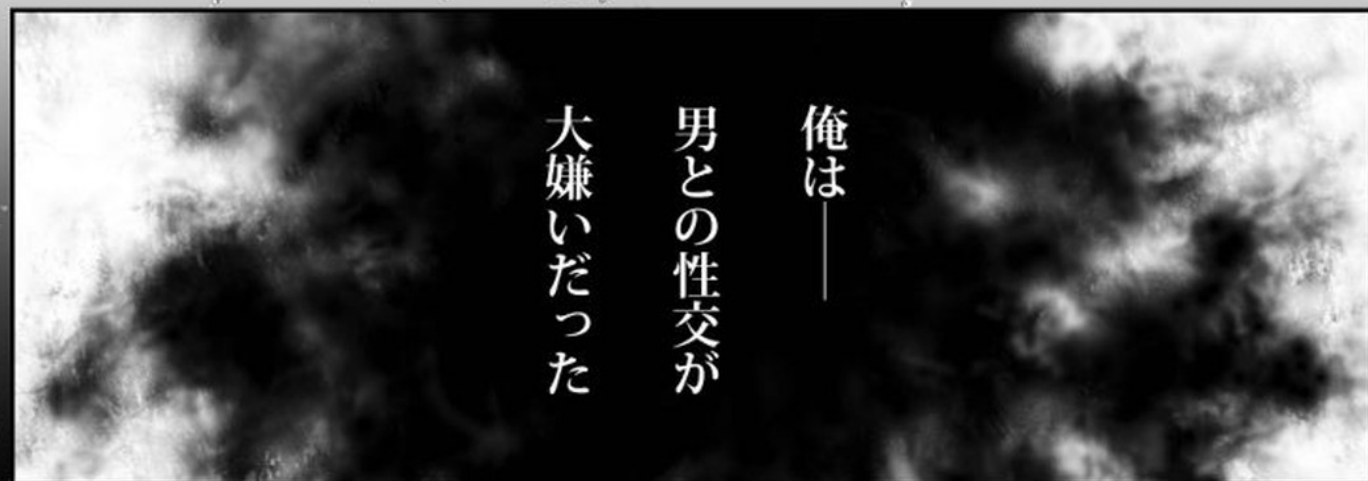


クワッ









「明日、死ぬかもしれない」

そんな立場になってみて
俺もわかった

理性やモラルなど

戦場では意味がねえのさ

俺はただひたすら

強くなりたいと
願いながら耐えた

稀に

優しく抱く
やつがいて

体が反応
しちゃったとき

あれが
一番
耐え難かった

この俺が

惑星ベジータの王子だった
この俺が……!!

男のいいようにされて
無様に喘ぐなど……

死に匹敵するほどの屈辱だった

皆さんに感じちゃった
クソみたいな俺を
いつぞ……

撃ち抜いてくれと
頼んだこともあった

バカな
ことを……

今お前に死なれては
……俺が困る



それなのに――



俺は

挿れられる性交が
大嫌いだった



解放されたじゃねえか……

俺を縛っていた

忌まわしい記憶から



カカロット……

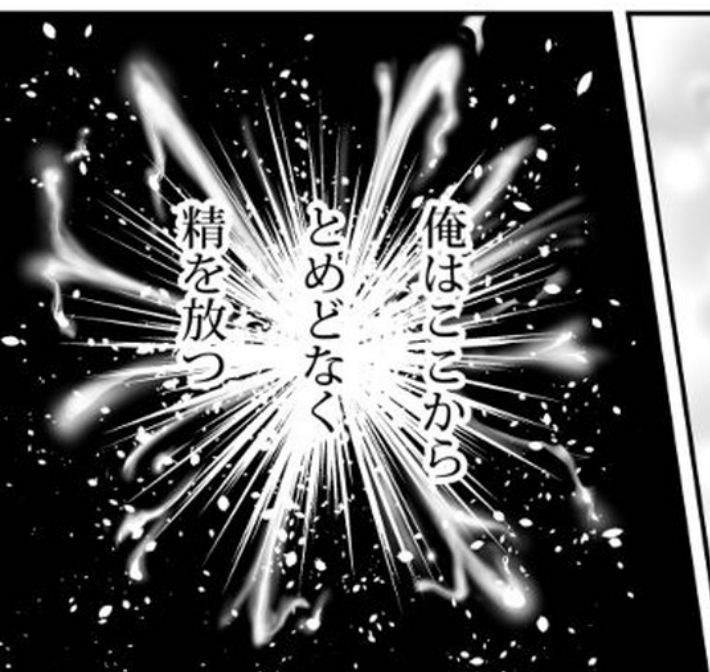
貴様のせいで

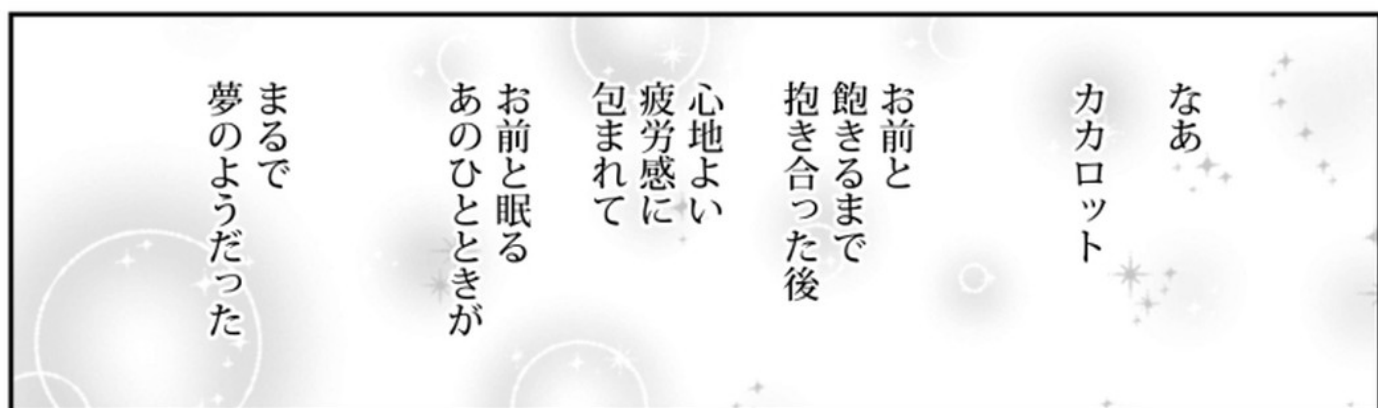
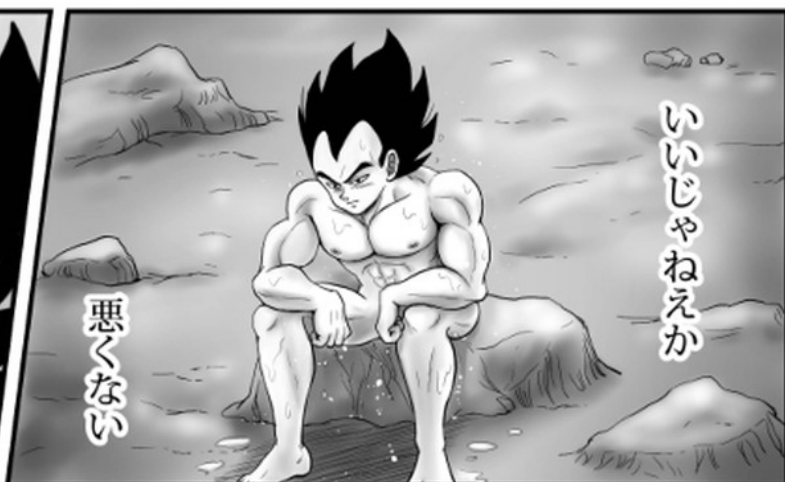
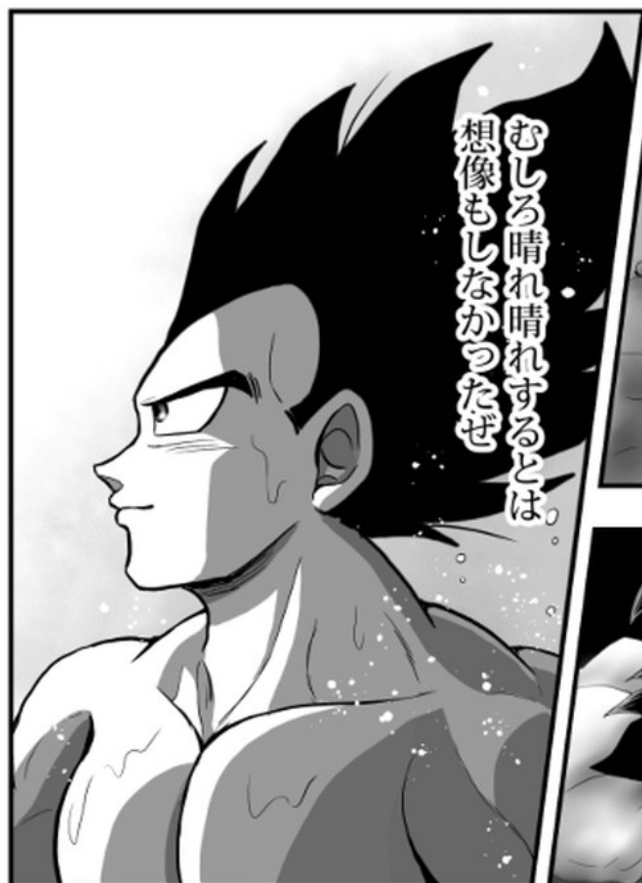


これが



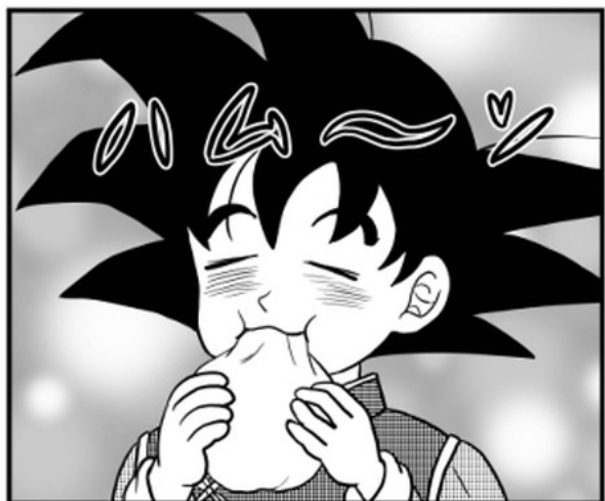
お前の





第2話 記憶

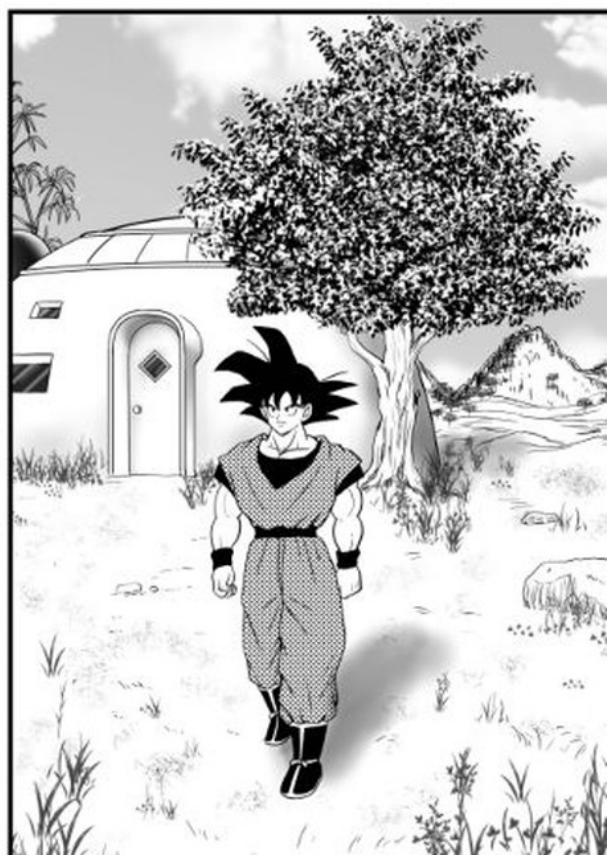
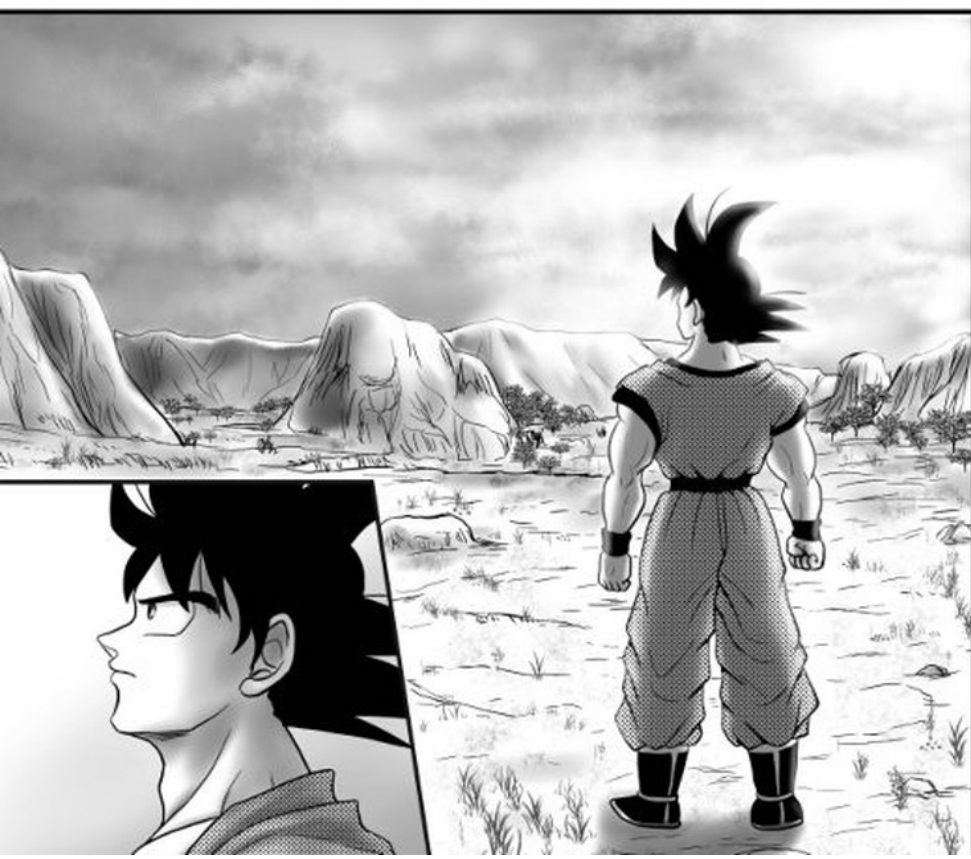


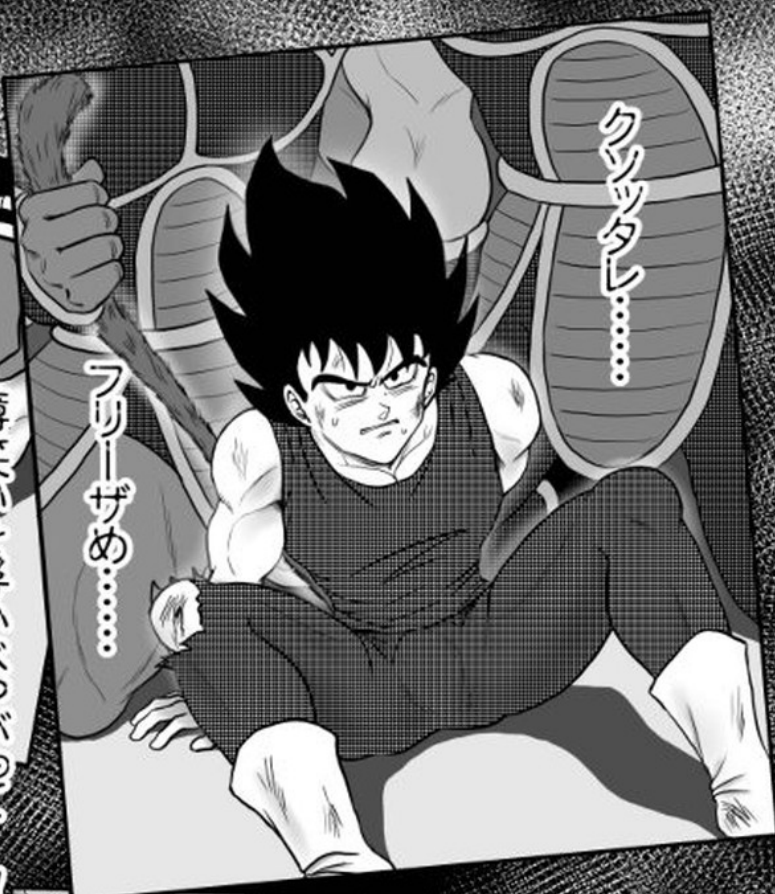


あんな思いをしながら
生きてる子供がいるなんて
考えたことすらなかった…

オラが悟天
くらいの頃は…

じっちゃんと一緒に
楽しく暮らしてた







「あいつが「ない」って言ったから...特に疑うこともなかった
そりゃあ...言えねえよな
あんな体験...
オラだって
なかったことにはしたいさ
オラが「男とやったことばあるか」と聞いたとき





オラのやったことは

果たしてあいつにとって
よかつたんか……？

精神と時の部屋に
いたときは……

あいつと過ごすのが

修業して

飯を食って

とことん抱き合って

疲れてバタツと眠るのが

あまりに自然で 楽しくて

あいつの過去のことには

あえてふれなかった



オラが
あいつを抱いたから

あんなことを
思い出すように
なっちまったんじゃねえかとか



だが
こうして1人に
なってみると

何だか落ち着かねえ

あいつのことばっか
考えちまつてる



今
何をしてるん
だろうとか

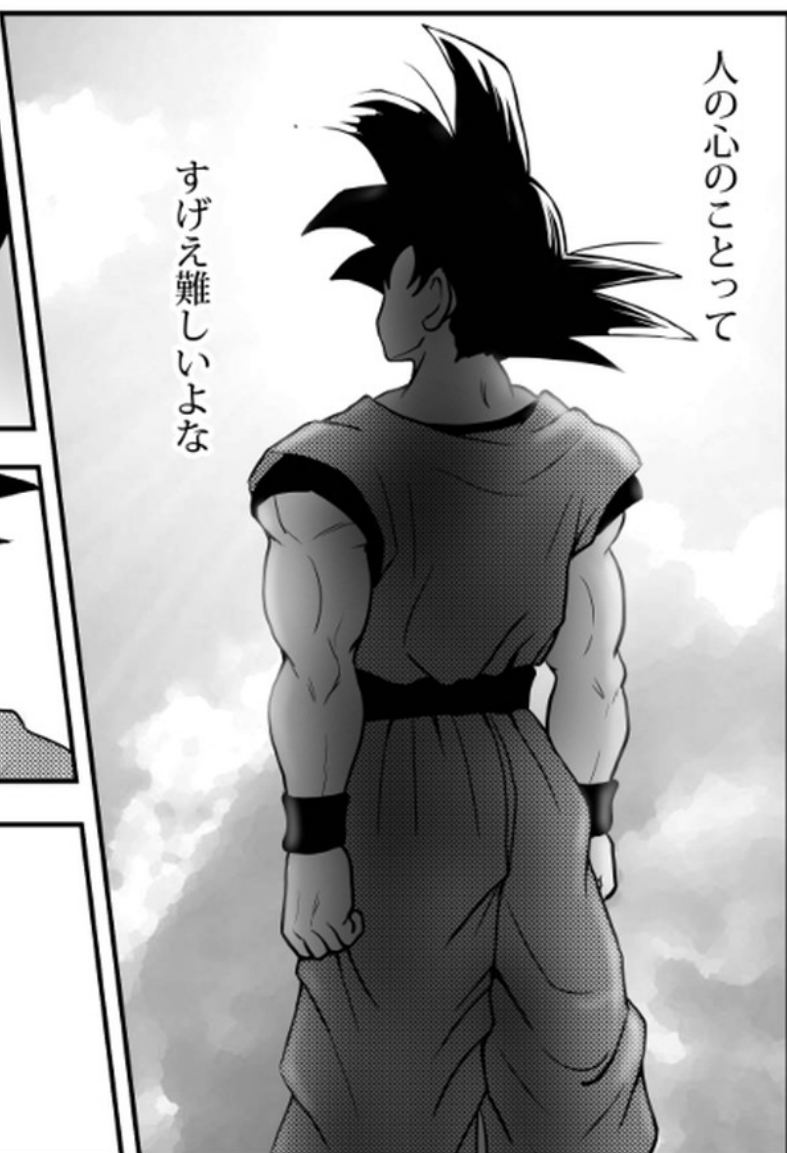


オラとのも……

本当は

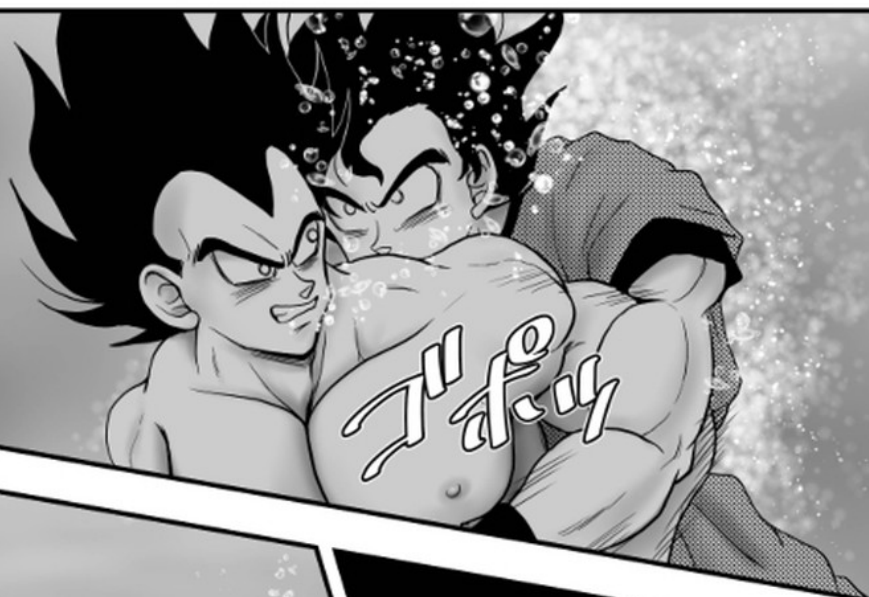
すげえ痛くて

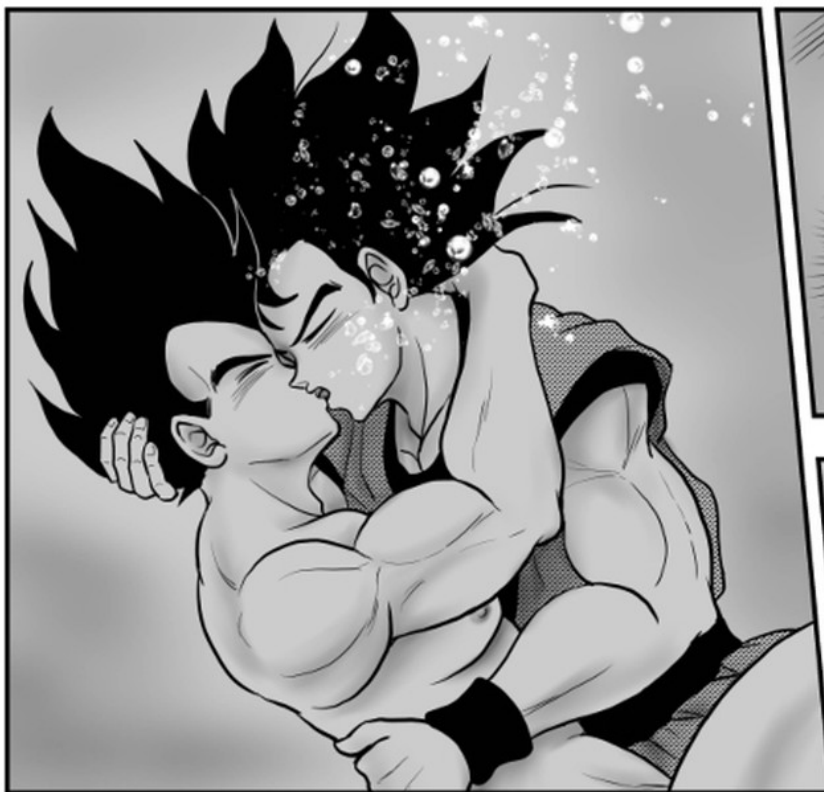
辛かつたんじゃ
ねえかとか















あ…あの
さっきも…
1人で
やってた
みてえだし…

ホリ



…な、何だと!?



ベジータって…
えっちなことするの…
…好きか?



水浴びをして…
体を乾かしてた
だけだっ!!!

みつ…み…



…やっで
ねえッ!!!

キハッ!



下品なことを大声で
ぬかすな——ッ!!

げっ…



おめえと
えっちなこと
するのが好きだ!!!

オラはっ!!





ホントか…？

オラの方が
強えと思つて…

が、我慢したり…
してねえか…



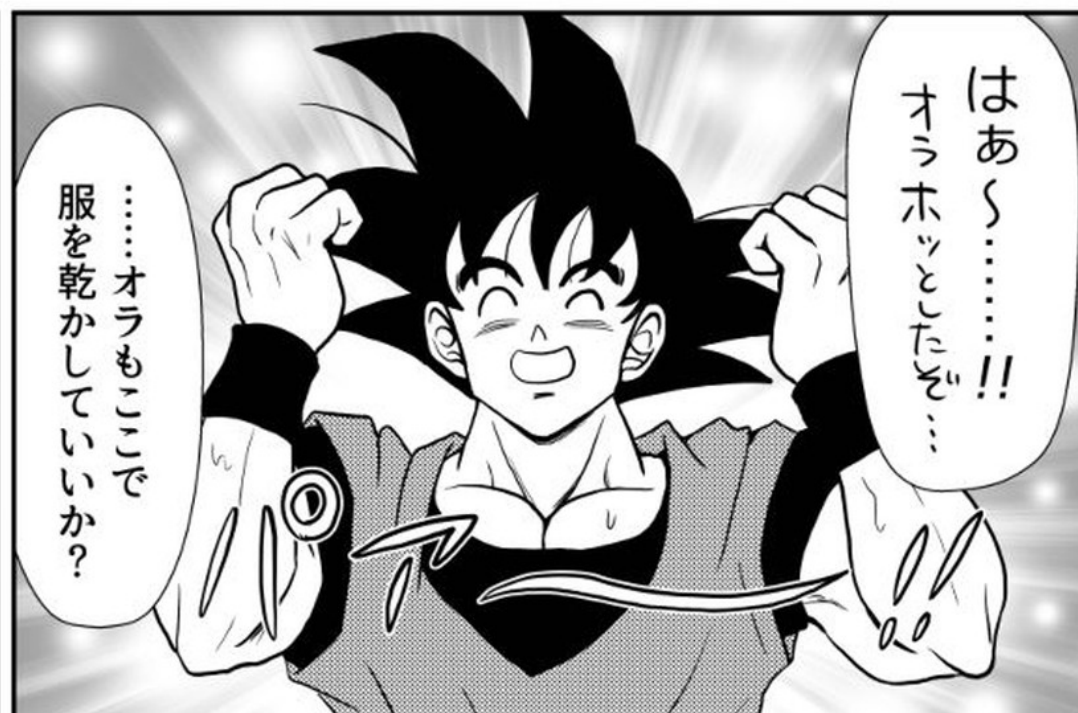
き…貴様あ…

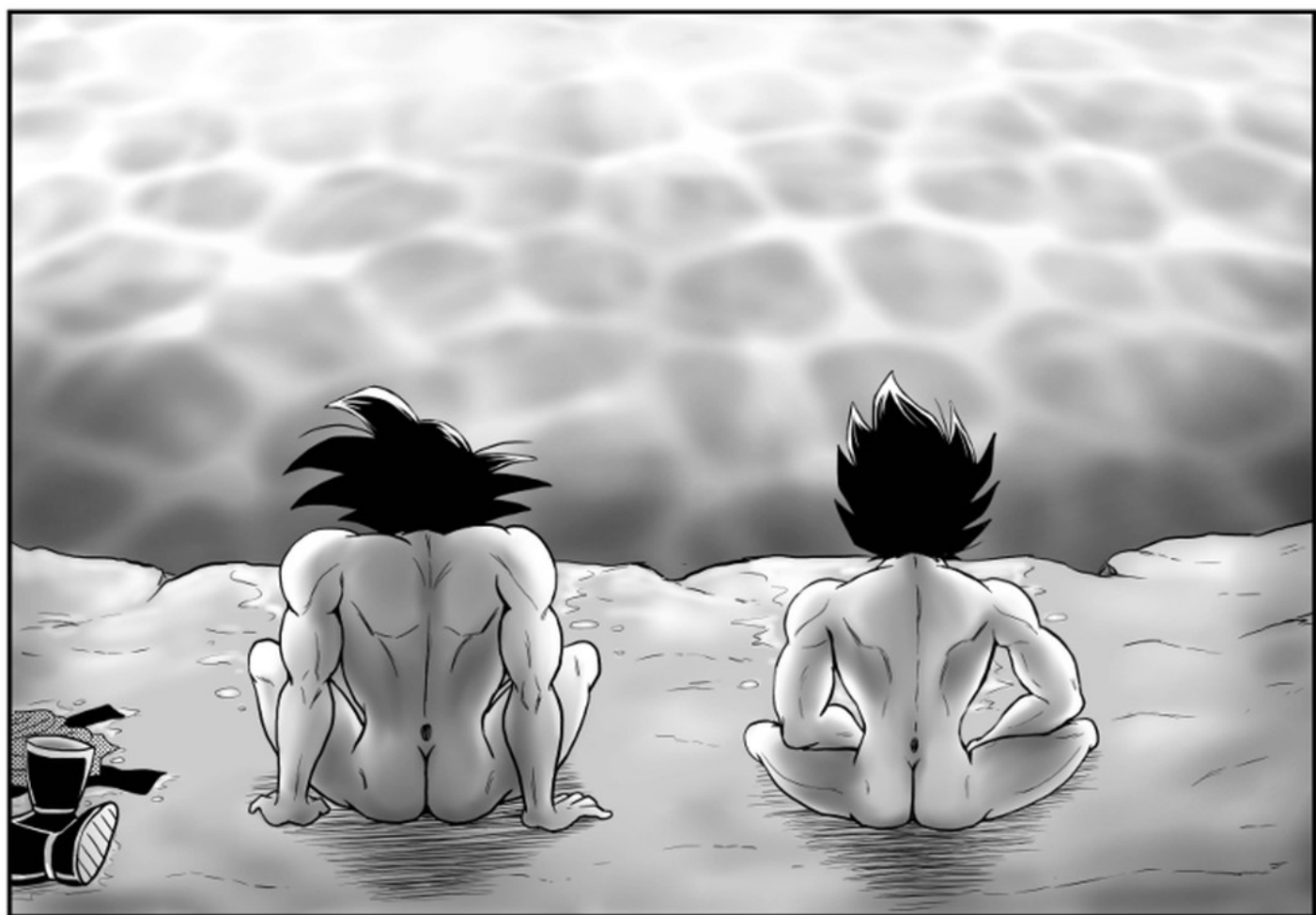
調子に乗るんじゃねえ!!!



洞窟が崩れるぞ!!!

うわわっ!!
ベジータっ!!







触れてえ



ほう……

言ってみろよ



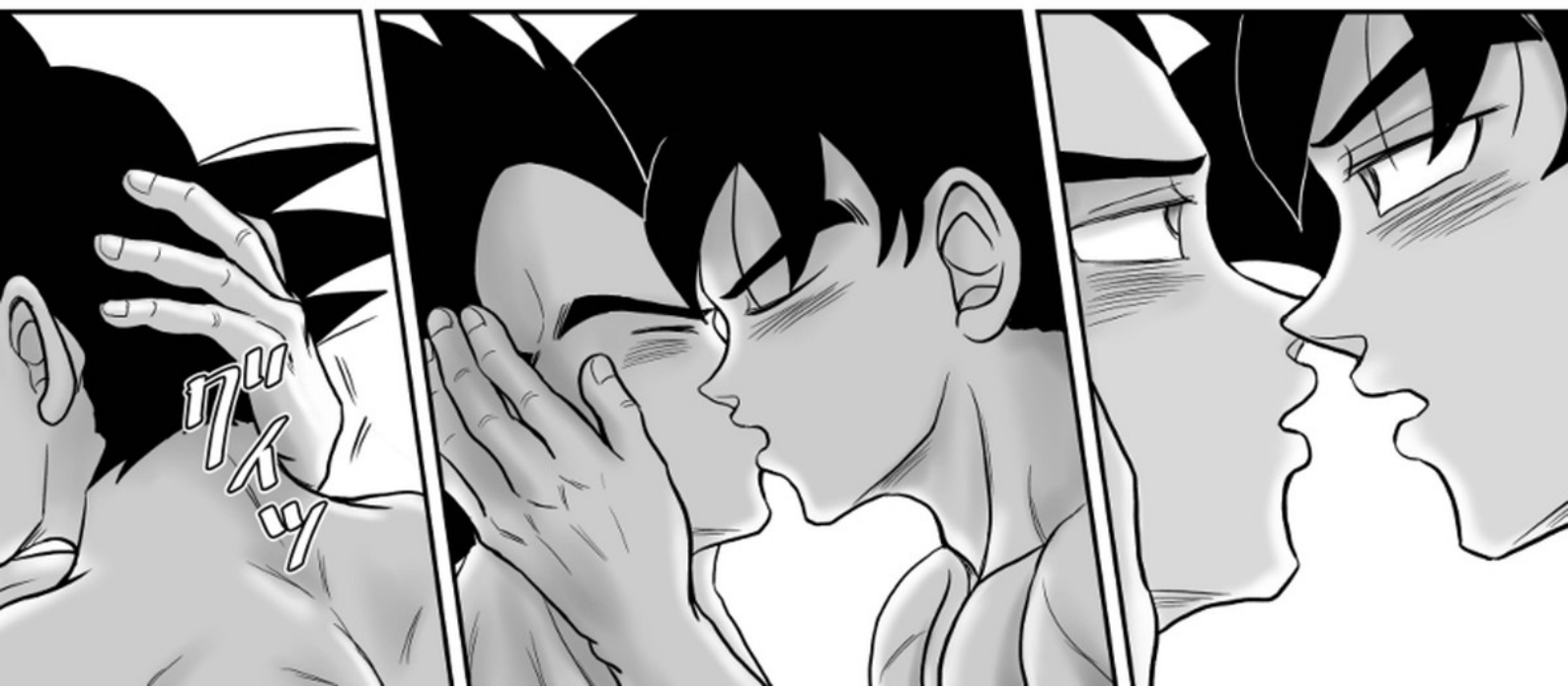
言わねえ……

けど……



ハツとするほど
柔らかな唇に

この
小せえ顔と



アハハ



ベジータ…



ああ……

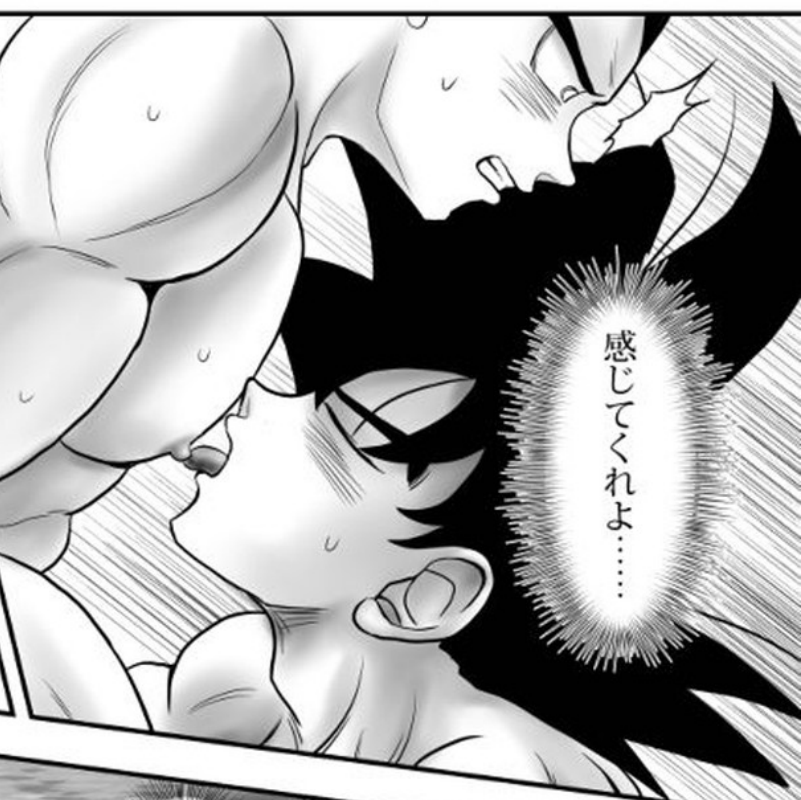


オラの気持ち……

言葉なんかにしなくても……
おめえには伝わるだろ……？



あつ……!!



感じてくれよ……

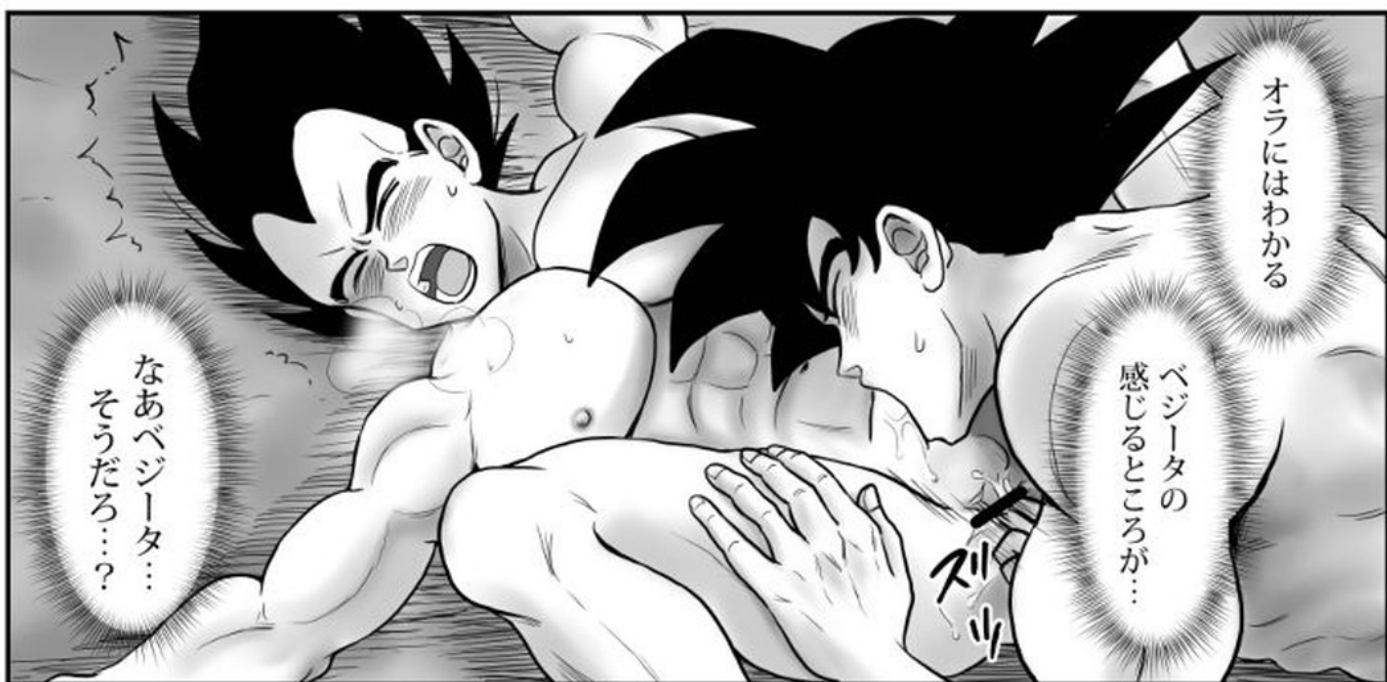


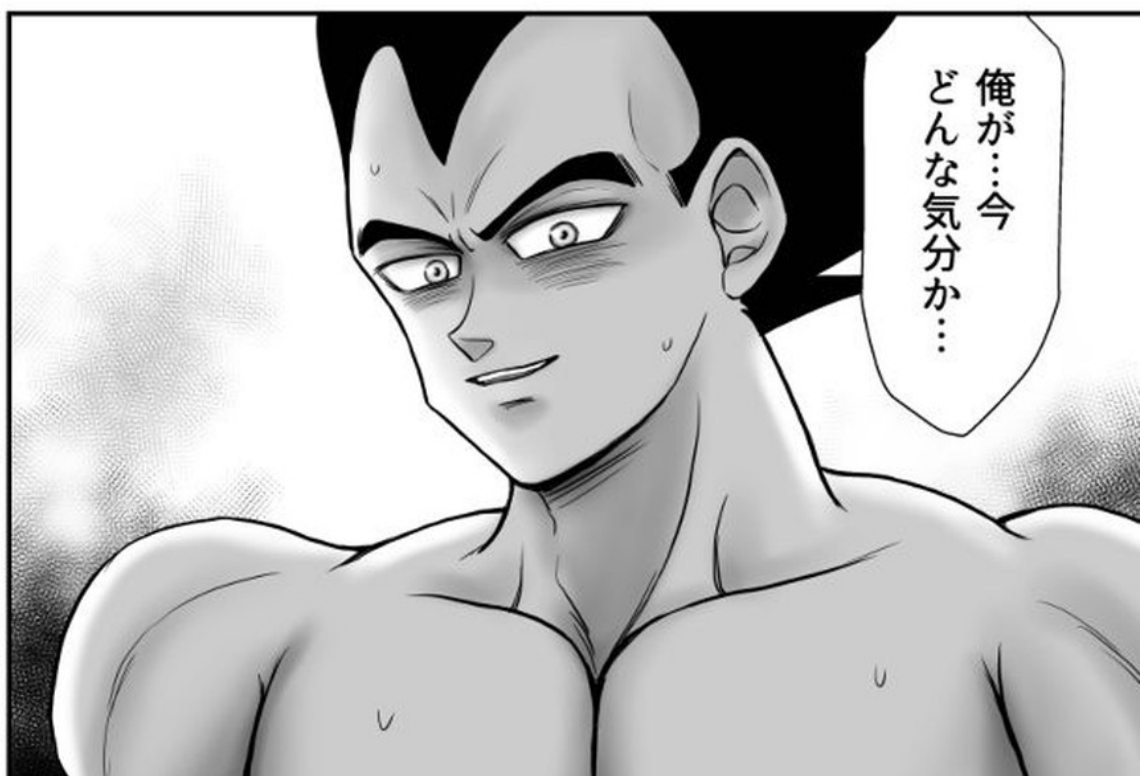
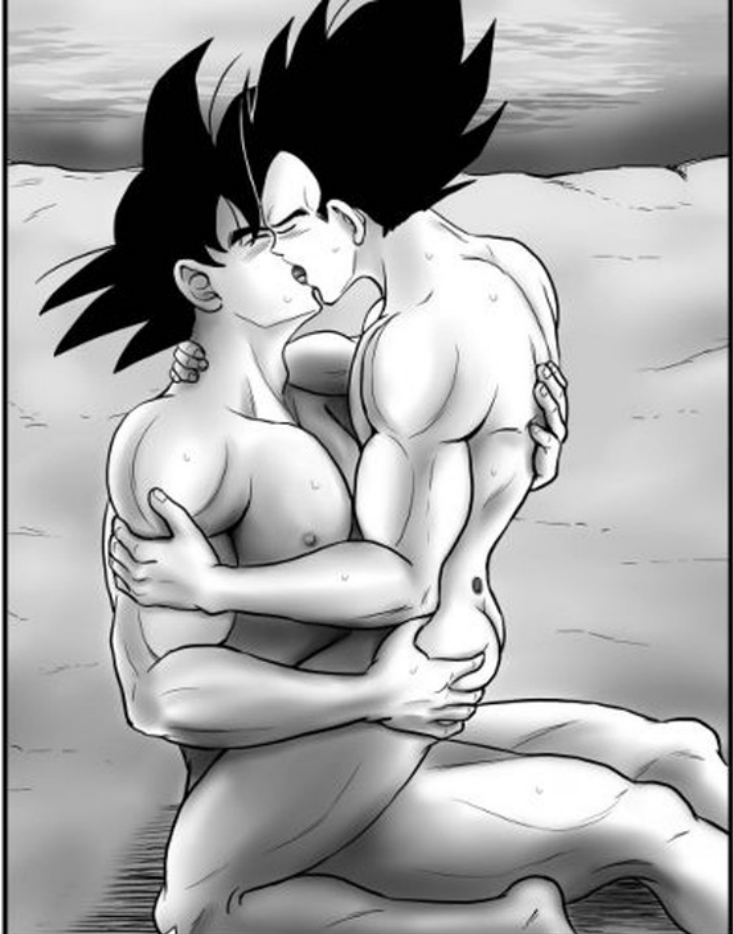
おめえへの思いを



オラを
突き動かす

ドサッ







もっと...とことん
感じてえんだろ...



伝わってるさ...!!

き、貴様...!!
超化しやがって...ッ



昇りつめてえ...



オラもだ...



あ...俺は...
もう...ッ

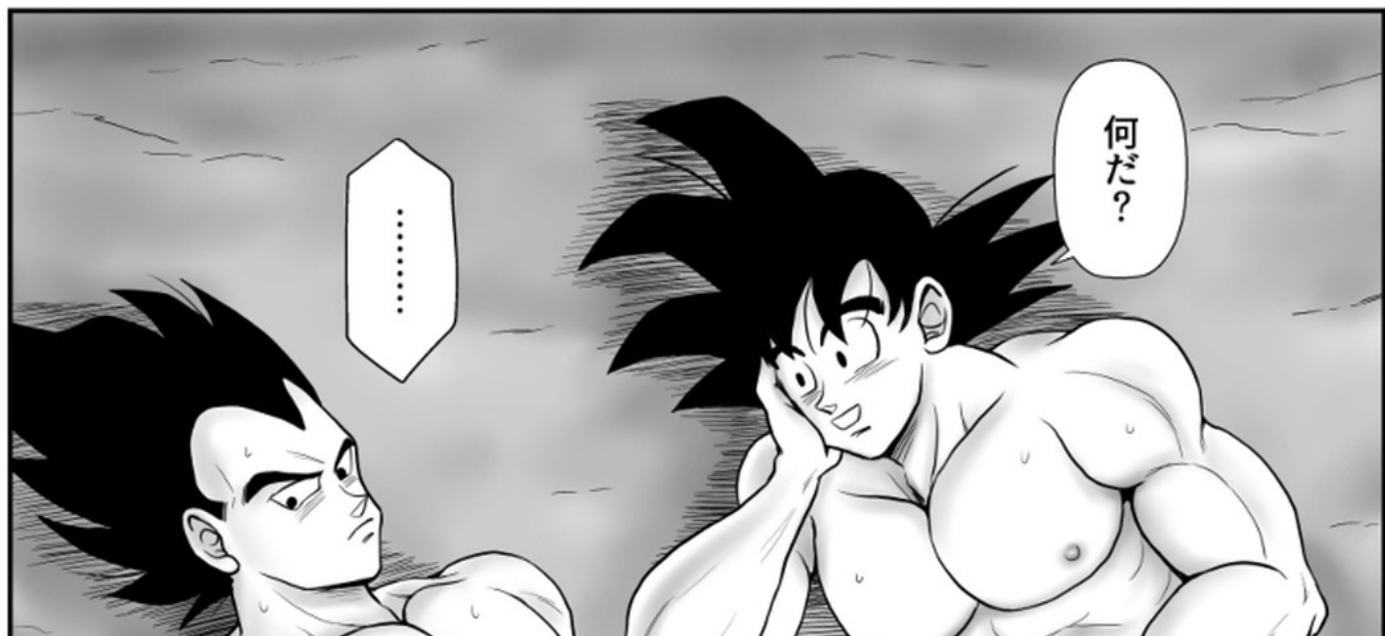
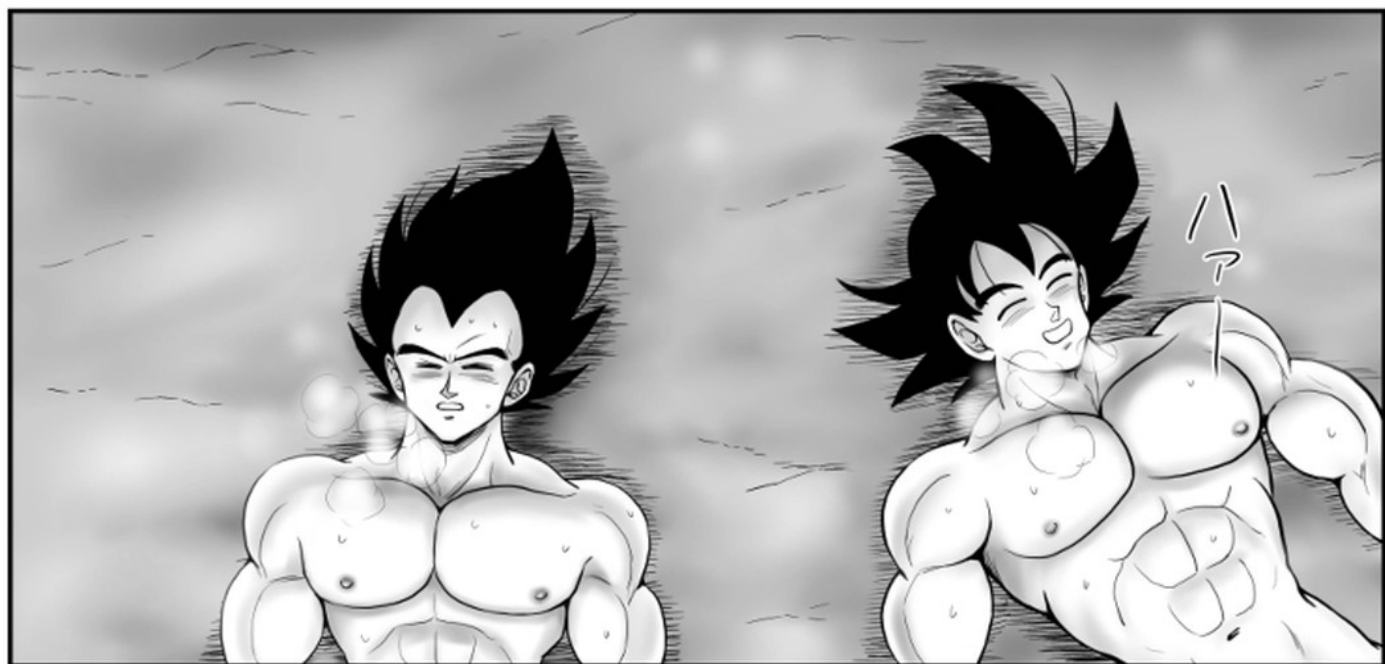
...イキそうか?



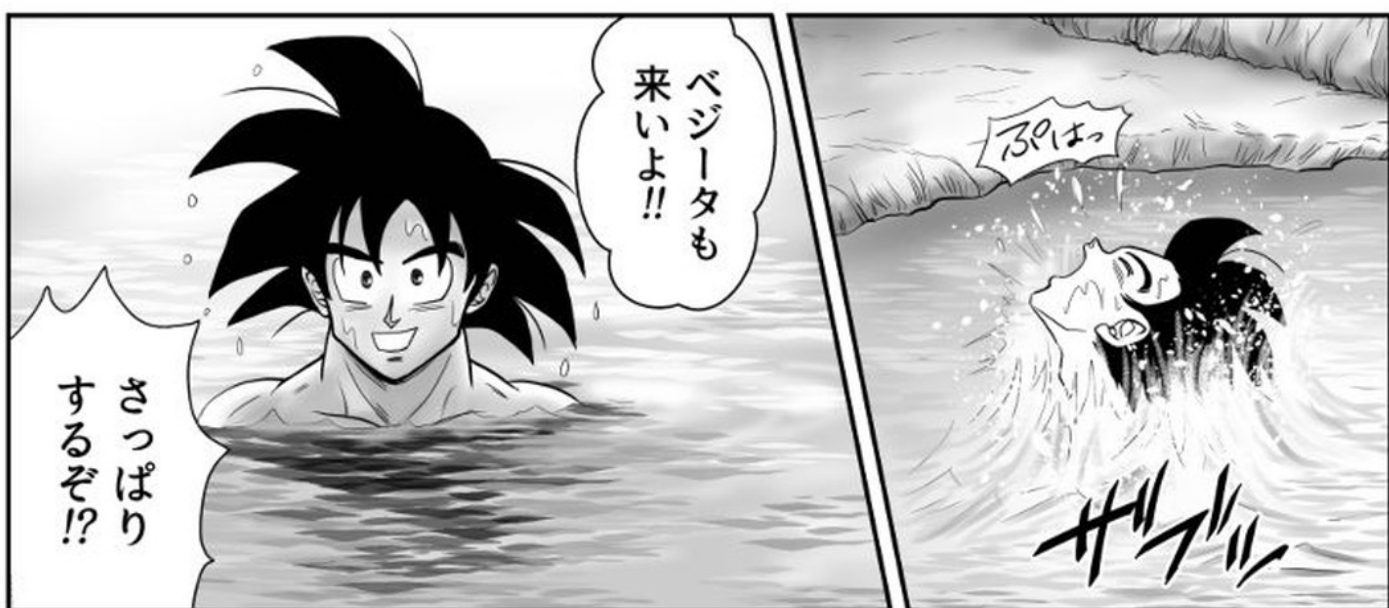
ああ...!!



おめえとオラだけの
高みへ...!!



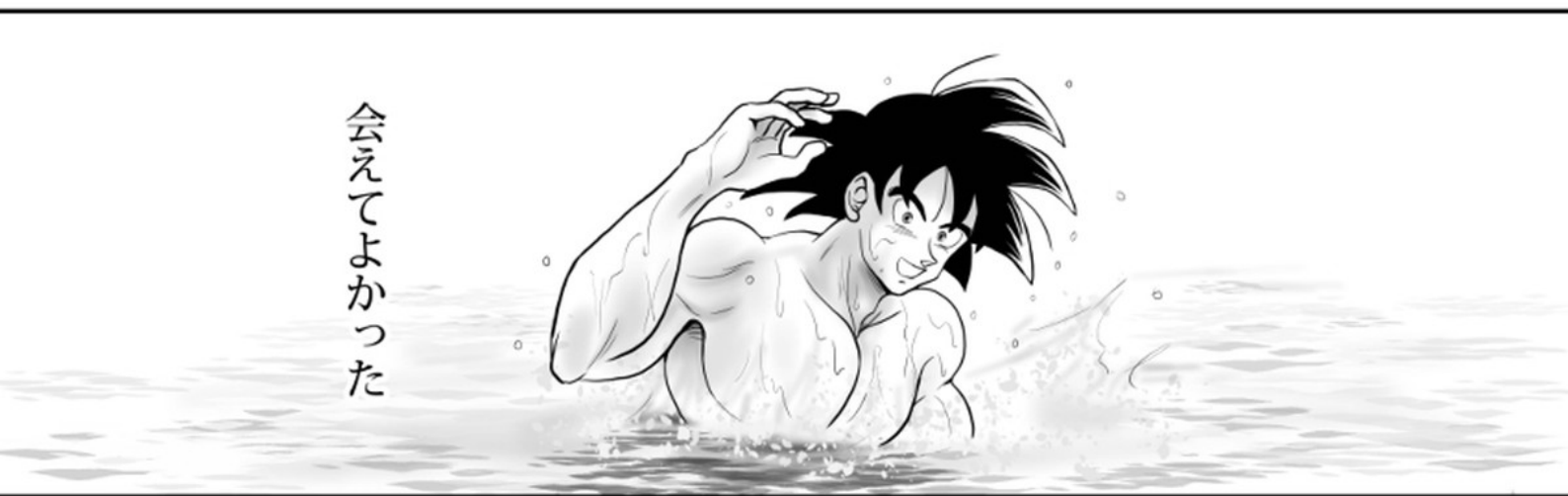




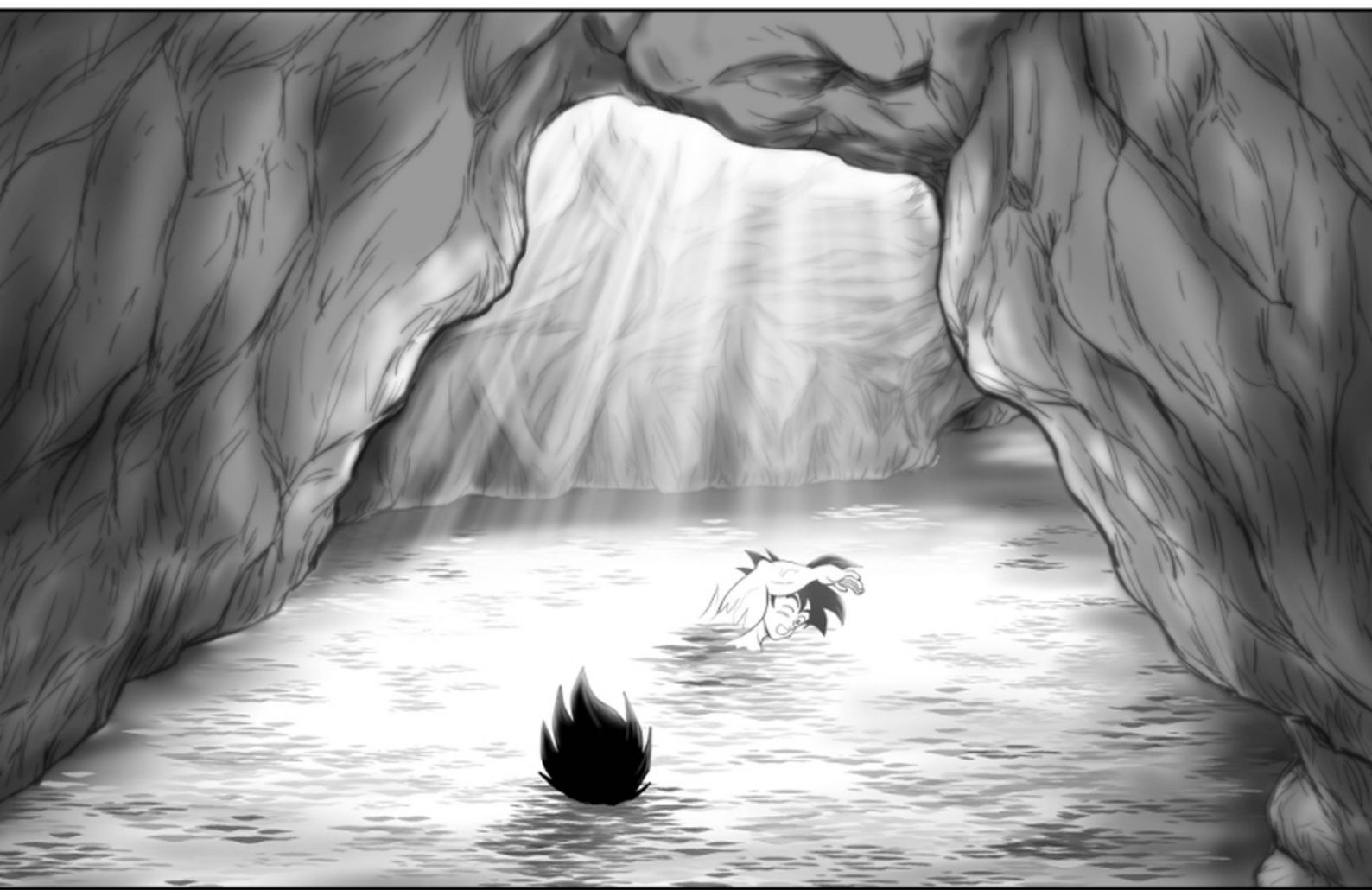


お前に

カカロット……!!



会えてよかった



終